

令和 2 年 5 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12330

研究課題名(和文) 精神障害者の長期的な育児支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of long-term child-rearing support program for persons with mental disorders

研究代表者

蔭山 正子 (Kageyama, Masako)

大阪大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：80646464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：精神障害者の長期的な育児支援の支援技術を検討するため、インタビューを実施した。支援技術では、信頼関係を築くまでの支援が最も難しく、また、最も重要であることが明らかになった。成人した子どもの立場に関しては、ヤングケアラー役割などが明らかになり、疾患の治療や支援によって改善することが見いだされた。健康な配偶者へのインタビューから、配偶者が将来に向けて自分の人生を考えることが重要であることがわかった。精神障がいを持つ当事者からは、孤立の中で育児をする姿や育児を通じた成長が見いだされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神障害をもちながらも子どもを産み育てる人が増えるが、支援のスキルや体制は不十分であり、準備が不足している。本研究では、障害をもつ当事者、その配偶者、育てられた子どもという家族構成員それぞれの経験を明らかにした。また、熟練の支援者の支援技術を明らかにし、著書にした。支援者は支援する上で対象者を理解することができ、支援の仕方にも示唆を得られると考えられる。その結果、当事者、配偶者、子供の生活の質が向上されると期待できる。

研究成果の概要(英文)：An interview was conducted to examine the support skills for long-term childcare support for people with mental disorders. It is the most difficult and the most important to assist in building a relationship of trust. Regarding the position of the adult child, the role of the young carer was clarified, and it was found that it could be improved by treating and supporting the disease. Interviews with healthy spouses have shown that it is important for spouses to think of their lives for the future. Participants with mental disorders found that they were raising children in isolation and growing through them.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：育児支援 母子保健 精神保健 精神障害者 配偶者 子ども ヤングケアラー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

精神疾患は、5人に1人が罹患する国民病になった。一方、抗精神病薬の発展やリハビリテーションの進歩により、精神障害があっても結婚し、親になる人が増加した。本邦でも統合失調症圏の女性外来患者で出産経験がある人は3-4割にのぼり(関口ら, 2007; 下山, 2005)。今後も増加が見込まれている。精神障害者の親は、育児能力の低さや精神症状から児童虐待のハイリスクであることが多くの研究で明らかになっている(Huntsman, 2008)。また、産まれた子どもが将来精神疾患を患う確率が高い(Beardsleeら, 1993; 岡崎, 2003)。そのため、児童虐待や子どもの精神疾患発症を予防する観点から、精神障害者が適切な育児ができるよう支援することが重要である。

2. 研究の目的

本研究では、精神障害をもつ親に対して、子が高校生になるまでの支援を保健・医療・福祉の分野で実践できるように、精神障害者への長期的な親を含めた家族支援の在り方を検討するために、精神障害者の親、配偶者、子ども、支援者の立場にインタビューを行い、生活や体験を明らかにするとともに、支援方法を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 支援内容や支援技術

精神障がい者への育児支援に関する児童福祉領域のワーカー及び母子保健領域の保健師による支援技術を明らかにすることを目的とした。

研究協力者は、機縁法により自治体に連絡し、基準に該当し、関心を示した者に依頼した。精神障がい者の育児支援を10年以上経験し、インタビュー時点で児童福祉領域に勤務しているワーカー8名と母子保健領域に勤務している保健師7名の協力を得た。

調査方法としては、一人1-2時間の個別インタビューとし、インタビューガイドを用いて半構成的インタビューを行った。支援がうまくいったと判断した事例2例と支援がうまくいかなかったと判断した事例2例をあげ事例ごとに以下を質問した：事例概要、うまくいった(うまくいかなかった)と判断した理由、支援経過と具体的な支援内容(アセスメントや行動を含む)

(2) 子どもの生活体験

精神疾患を患う親をもつ子の生活体験、親の病気への気づきと対処、および、子ども時代に必要だったと思う支援を記述することを目的とした。

20-50代の子6名にグループインタビューを行い、逐語録を質的記述的に分析した。

(3) 子どもが親になる体験

精神障がいを抱えた親に育てられた女性の中には、自身が母親になることへの不安や困難を抱える人がいる。本研究は、精神障がいを抱えた親をもつ女性が母親になる経験を明らかにすることを目的とした。精神障がいを抱えた親をもつ女性で、自身も子育てを経験した4名に個別インタビューを行い、質的記述的に分析した。

(4) 配偶者の体験

精神障がい者をパートナーにもち子育てをする配偶者の経験を記述することを目的とした。

18歳未満の子をもつ当事者をパートナーにもつ妻8名と夫2名の計10名に個別インタビューを行った。逐語録を質的記述的に分析した。

(5) 精神障害当事者の体験

精神障がい当事者(以下、当事者)が年々増加していることに伴い、親である当事者も増加している。精神障がいをもちながら育児を行うことは容易ではなく、支援を必要とする。しかし現在わが国において親である当事者の経験を分析した質的研究はほとんど報告がなく、当事者の視点を踏まえた支援がなされているとは言い難い。そこで、適切な育児中の支援を検討するために、精神障がいを抱えながら育児をしてきた親の経験を明らかにすることを目的とした。

18歳未満の子どもをもつ当事者を研究協力者とし、インタビューガイドに基づいた個別の半構成的面接を行った。許可を得て録音した音声から逐語録を作成し、精神障がいを抱えながら育児をしてきた親はどのような経験をしたかという視点で、質的記述的に分析した。

4. 研究成果

(1) 支援内容や支援技術

保健師7名は、平均44(範囲:35-55)歳だった。28事例のうち、20事例が精神疾患の母親、8事例は両親だった。事例の診断名では、気分障害、統合失調症、アディクション・パーソナリティ障害が多かった。

Parents with mental illness diagnosed with addiction and personality disorders were

more difficult to support than those diagnosed with mood disorders or schizophrenia. Public health nurses supported parents with mental illness with the aim of achieving goals such as “building continuous consultative relationships,” “ensuring living conditions had a minimum level of safety and comfort,” “parents playing their roles,” “parents and children living together in the community,” and “fostering children’s growth.” While they provided support by “assessing their relationships with parents,” “building consultative relationships with parents,” “assessing parents’ illnesses/disorders and supporting,” “assessing childrearing abilities and supporting,” and “cooperating with related agencies,” they tended to focus on the growth of the children rather than the recovery of parents.

Consultative relationships were the beginning of support, as well as the most important and difficult skill. Public health nurses need to provide support for the recovery of parents with mental illness and learn about personality disorders and addiction.

ワーカー8名は、平均50.8(範囲:42-60)歳だった。3名が母子生活支援施設、2名が児童相談所、3名が自治体児童福祉対応部署で勤務していた。32事例のうち、30事例が精神疾患の母親、1事例が父親、1事例は両親だった。事例の診断名では、アディクションとパーソナリティ障害が最も多く、続いて統合失調症、気分障害だった。

Almost half of the parents with mental disorders identified in this study were diagnosed with addictive or personality disorders. Social workers supported parents in the following goals: “being able to consult when the need arises,” “living conditions with minimum level of safety and comfort for children,” “living arrangements suitable for the family,” “independence of the family,” and “growth of children.” Social workers supported more comfortable and realistic living arrangements for each family and supported them to live independently. The social workers supported the parents with the following support skills: “assessment of the needs of the family,” “assessment of and support to relationships with parents,” “assessment and support of growth of children,” “assessment and support in child-raising by parents,” “assessment and support for the stability of medical condition of parents,” “support through cooperation with other related agencies,” and “continuing support for being an independent family.”

Social workers had many ways of assessing/supporting parents with mental disorders. However, social workers must be more sensitive to medical conditions and collaborate more with psychiatrists.

(2)子どもの生活体験

精神疾患を患う親は、研究協力者全員で母親だった。子ども時代には《家で落ち着けない》《睡眠に支障が出る》《経済的に困窮する》《学業や交友関係に支障が出る》《家事を手伝う》《親に情緒的ケアをする》《親に医療的ケアをする》などの生活体験をしていた。病気への気づきと対処として《他の家との比較で気づく》《親が病気だと知るが状況は変わらない》《親が病気と知り重荷になる》などのカテゴリー、子ども時代に必要だったと思う支援として《病気の説明》《積極的な介入》というカテゴリーが生成された。

子の生活体験は、親の精神疾患の影響を受けており、支援することで改善する可能性があると考えられた。

(3)子どもが親になる体験

女性は、【結婚・出産に対する不安や怖さ】を抱いていたが、安定した人や家族との出会いがあり、【結婚・出産の決意に至る】。【子育てをする上での困難】があるも【自分の力で子育てに対処】した。やがて【婚家や周囲に支えられて子育てに対処】した女性は、【子育てを通じた癒しと成長】を経験し、【母を理解そして感謝】の思いを抱いていた。育児困難を軽減するためには夫・婚家・ママ友の存在や積極的な支援が重要であり、結婚や育児への不安を解消するためには、結婚前の早い時期に同じ子どもの立場の人と体験を共有することが有効だと考えられた。

(4)配偶者の体験

配偶者の経験として【当事者の病気に戸惑い、翻弄される】【病状の悪化に伴い生活がままならなくなり、追い詰められる】【子どもへの説明や病気の影響にひとりで悩む】【病気の偏見や無理解によって孤立する】【理解者や支援者との出会いに救われる】【結婚生活を続けるかどうか考える】という6つのカテゴリーが生成された。配偶者としての経験は結婚生活を継続するか否かという帰結に向かっていた。

配偶者が自分の意思で結婚生活を継続するようになるためには、配偶者が学ぶ場の提供、配偶者の障がい受容のためのサポート、周囲の理解と支援、子どもへの支援が必要であることが示唆された。

(5)精神障害当事者の体験

4つのカテゴリを【】で示す。育児中の当事者は、特に妊娠中や授乳期において服薬調整や育児の忙しさによって病状が不安定になった。しかし家族と協力し役割分担をすることで【病状コントロールの難しさを乗り切る】という経験をし、自分なりに病状とうまく付き合う方法を模索した。また【周囲からの孤立を味わうが理解者と出会い救われる】という経験をした。家族、保育園や学校におけるママ友などからの孤立感を味わい、支援にも十分につなげることができずに苦しむが、当事者会などで悩みを相談できる人と出会ったことで救われた。当事者はまた、子どもに病気が遺伝しないかと不安に感じ、障がいの特性として家事がこなせないことによる子どもの生活への影響を心配した。一方で自分の経験をもとに様々な困難に対する対処法を子どもに提示することができた。このように【病気が子どもに与える影響に苦しみながらも自分の経験を生かした育児】を行っていた。そして子どもが生きる希望となり、育児を通して自信や責任感が生まれた。【親となり生きることに前向きに】なった当事者は、自身の経験を生かして、同じ境遇の人たちの居場所づくりを目指し、育児をしながら社会参加することを目標とした。

当事者の経験から、特に妊娠期や授乳期に病状管理への支援が必要である。服薬への不安を把握し、服薬管理をサポートするだけでなく、病状安定のための自分なりの工夫や対処法を見つけられるように支援することが重要である。また多くの者が周囲からの孤立を感じていた。悩みを打ち明けられる仲間と出会い救われたという経験から、当事者会の存在は重要であり、今後増加されることが期待される。さらに、自分の経験を生かして育児を行い、子どもが生きる希望となったという当事者の前向きな経験を支援者が把握することは、親である当事者への否定的なイメージを払拭し、当事者と良い関係を築いていく上で重要だと考えられる。

当事者である親は育児中に病状管理や周囲からの孤立、病気が子どもに与える影響について苦しむという経験をしていた。病状が不安定になりやすい時期におけるサポートや、病気を持ちながらの育児の悩みを相談できる居場所を増やしていくことが必要であると示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 羽尾 和紗、蔭山 正子	4. 巻 8
2. 論文標題 精神疾患を患う母親をもつ子どもの生活体験と病気の気づき	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本公衆衛生看護学会誌	6. 最初と最後の頁 126 ~ 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15078/jjphn.8.3_126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 鳥田愛理沙, 蔭山正子	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 精神障がいを抱えた親をもつ女性が母親になる経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 林千華, 蔭山正子	4. 巻 9(1),
2. 論文標題 精神障がい者をパートナーにもち子育てをする配偶者の経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公衆衛生看護学会誌	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 蔭山正子	4. 巻 148
2. 論文標題 メンタルヘルス不調の親への育児支援から学ぶ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 全母協通信	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蔭山正子	4. 巻 201
2. 論文標題 精神障がいのある当事者の恋愛・結婚・育児の応援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kageyama, M., Yokoyama, K.	4. 巻 11
2. 論文標題 Social Workers' Support Skills for Parents with Mental Disorders: A Qualitative Descriptive Study in Child-Welfare Social Workers.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Open Public Health Journal	6. 最初と最後の頁 309-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1874944501811010309	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kageyama, M., Yokoyama, K.	4. 巻 12
2. 論文標題 Childrearing Support Skills Provided by Public Health Nurses to People with Mental Illness: Qualitative Descriptive Study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Open Nursing Journal	6. 最初と最後の頁 162-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1874434601812010162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 蔭山正子	4. 巻 2
2. 論文標題 精神障がい者の結婚生活を支えるための配偶者支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科臨床サービス	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 林千華, 蔭山正子
2. 発表標題 育児中の精神障がい者の配偶者が経験すること: 質的記述的研究
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山沙絵, 蔭山正子
2. 発表標題 精神疾患のある親への育児支援に関する海外版e-ラーニングプログラム～日本への適応可能性の検討. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会, 山口, 2019.1.26-27.
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蔭山正子, 横山恵子
2. 発表標題 精神障がい者への保健師による育児支援技術: 質的記述的研究
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横山恵子, 蔭山正子
2. 発表標題 精神障がいを持つ親に育てられた子どもの困難とリカバリー
3. 学会等名 日本精神保健看護学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 横山恵子, 蔭山正子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ペンコム	5. 総ページ数 256
3. 書名 静かなる変革者たち 精神障がいのある親に育てられ、成長して支援職に就いた子どもたちの語り	

1. 著者名 YPS横浜ピアスタッフ協会、ボルケ、蔭山正子、横山恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 精神障害者の結婚と恋愛とセックス	

1. 著者名 蔭山正子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 267
3. 書名 メンタルヘルス不調のある親への育児支援 保健福祉専門職の支援技術と当事者・家族の語りに学ぶ	

1. 著者名 横山 恵子、蔭山 正子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 精神障がいのある親に育てられた子どもの語り	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----